バイカルシベリア地域における 2010 年日露共同調査報告
―OIS3 段階の人類文化の探求―

加藤博文[1]　佐藤孝雄[2]　吉田邦夫[3]　鈴木建治[1]　G.Medvedev[4]　E.Lipnina[4]　F.Khenzykhenova[5]
北海道大学[1]　慶應義塾大学[2]　東京大学[3]　イルクーツク国立大学[4]　ロシア科学アカデミー地質学研究所[5]

バイカルシベリア地域は、1871 年にロシアで最初の旧石器時代遺跡である陸軍病院遺跡が調査されて以来、旧石器研究の重要なフィールドの一つとされてきた。バイカル湖をはさみその南北には中期旧石器時代以前のアシューリアン期に対比される石器群や、中期旧石器時代初頭のムステリアン石器群から後期旧石器時代初頭の初期石刃石器群にかけての遺跡群、さらにマンモスの牙製のビーナスや小児の墓、住居が確認されたマリタ遺跡やブレチ遺跡など広く世界的に知られている遺跡が数多く分布している。これらの遺跡群は、その堆積環境と有機質の文化遺物を含む豊富な考古学的資料が検出されるフィールドとして国際的にも注目されてきた。

本研究は、最終氷期（約 7 万年前以降）におけるユーラシア大陸北東部や新大陸へのホモ・サピエンスの進出とその背後に存在した環境・文化適応行動を解明することを目的とする。本研究を展開するにあたり、考古学、考古年代学、形質人類学、古生物学、分子系統進化学、環境遺伝学、地質学などの研究分野からなる共同研究を組織した。

バイカルシベリア地域での調査は、イルクーツク市の北方約 170km に位置するブラーツク貯水池（160km² に及ぶ人造湖）沿岸の遺跡群を対象としてきた。この人造湖の出現によって、かつての丘陵部が毎年浸食され、湖岸一帯に多量の石器や動物化石が露出し、数多くの遺跡が確認されている。今回の発表では、2003 年から継続して調査している、バリショイ・ナリン I 遺跡（図 1：53° 34′ N, 103° 30′ E）の 2009 年と 2010 年の成果を中心に報告する。

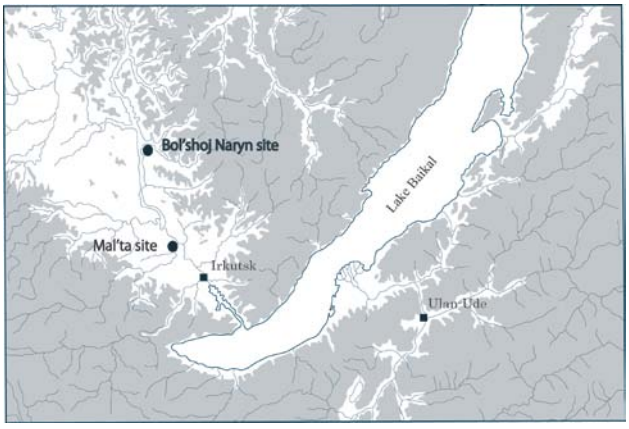

図 1　遺跡の位置

バリショイ・ナリン I 遺跡から出土した石器や動物化石は、カルギンスキー亜間氷期（OIS3）の古土壌層から確認されている。この古土壌層中から得られたこれまでの ^{14}C 年代測定値は、27kaBP-28kaBP 範囲に集中する。出土した石器は、削器（図 2-2）、掻器（図 2-3,4）、尖頭状石器（図 2-6）、錐状石器（図 2-1）、石核（図 2-5）、小型石刃、石刃などが検出されている。剥片類や石核類の形態から推測される剥片剥離技術は、小型石刃剥離技術、石刃剥離技術、求心状剥離技術である。石器石材はフリント、石英、泥岩、珪岩などが利用され、特に小型の石器類ではフリントなどの緻密性の高い石材が選択されている。発掘時に肉眼で検出された脊椎動物化石の主体は、ウマとバイソンを含むウシ属の資料によって占められていた（表 1）。またフルイにより採集された微小動物化石群にもステップレミングの資料が目立つことから、カルギンスキー亜間氷期、遺跡周辺にはステップが広がっていた可能性が高い。加えて、ウマの中足骨には、意図的に縦割りされたとおぼしき資料も複数点確認された。これらは、概期における骨器・骨製品製作の一端を知る手がかりとなるかもしれない。

今後の課題の一つとして、石器の小型化や植刃器などの組合せ道具の出現などと関連するであろう、間氷期（OIS3）から寒冷期（OIS2）へむけた環境・文化適応行動の解明が挙げられる。バリショイ・ナリン遺跡群も含めたバイカルシベリア地域の遺跡群の比較研究により、さらなる資料的蓄積を進め、全容の把握に努めたい。

なお、本研究は、慶應大学・北海道大学・東京大学がイルクーツク国立大学と共同で計画した国際共同調査である。平成 21 年度から科学研究費補助金基盤研究 A（研究代表者：佐藤孝雄）を受けて、調査・研究を継続している。

横 15cm× 縦 20cm

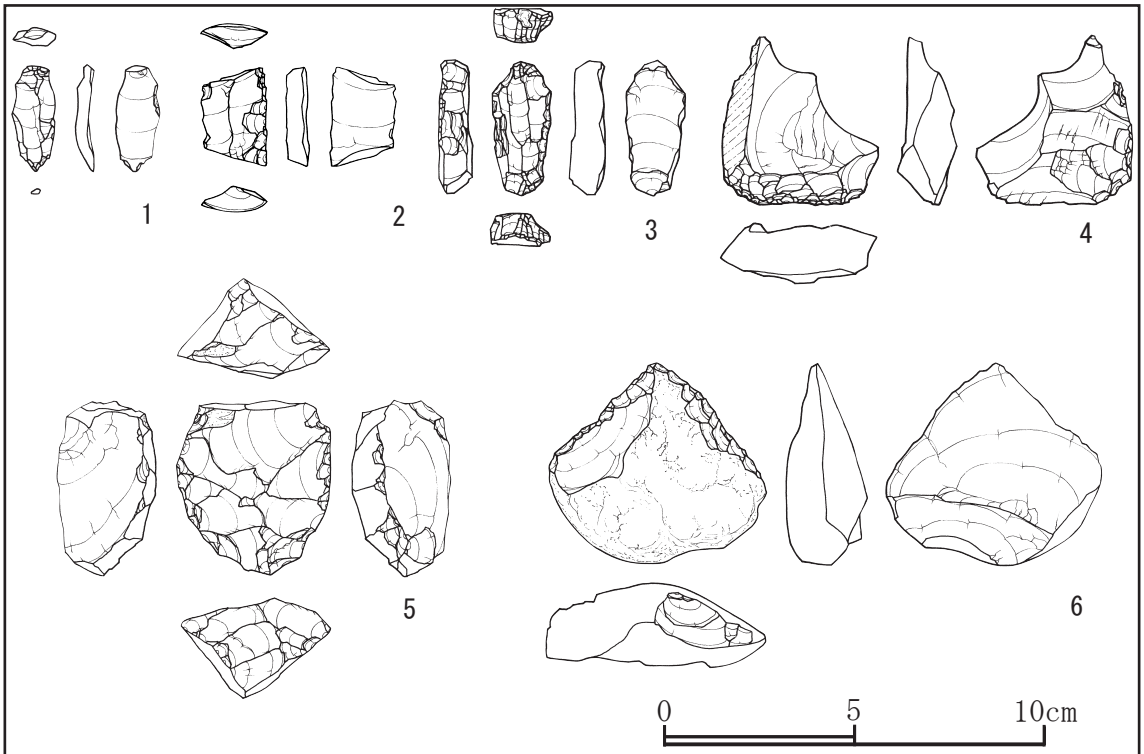

図 2　2009 年バリショイ・ナリン I 遺跡・発掘区 2 の石器群
1 錐状石器　2 削器　3, 4 掻器　5 石核　6 尖頭状石器

表 1　バリショイ・ナリン遺跡群の動物化石群（肉眼検出資料）

Taxon		The location and the investigative year	I										II		Total	
			2004		2005		2009		2010		Subtotal		2004			
			NISP	MNI	NISP	MNI	NISP	MNI	NISP	MNI	NISP	MNI	NISP	MNI	NISP	MNI
Mammalia																
Pikas	*Ochotona* sp.				1	1					1	1			1	1
Mountain Hare	*Lepus timidus* Linnaeus				9	1					9	1			9	1
Arctic Fox	*Alopex lagopus* Linnaeus												1	1	1	1
Deers	Cervidae				2	1					2	1	4	2	6	3
Bison and relatives	Bovini		4	1	7	1			3	1	14	3	4	1	18	4
Horse	*Equus* sp.		3	1	13	2	13	1	10	1	39	5	10	1	49	6
Mammoth	*Mammuthus* sp.										0	0	1	1	1	1
indetermined			43		111		33		97		284	0	100		384	
Aves																
indetermined					1	1					1	1			1	1
		Total	50	2	144	7	46	1	110	2	350	12	120	6	470	18

Numerical values of 2009 and 2010 are still provisinal.